

令和4年(2022年)7月10日 日曜日

大學新聞

三者連携事業

「チョコレート」を探究する

東洋学園大学



ワークショップでは付箋を使ってアイデアを出し合う



高校生らしい独創性あふれる商品企画が多数披露された

東洋学園大学（東京都文京区）は6月18日、東京製菓（東京都新宿区）と株式会社正栄デリシィ（本社茨城県筑西市）と連携し、高校生を対象とした特別探究セミナー「食べて・知つて・企画してチョコレートを深く学ぼう！」を開催した。

当日は、第一部として、東京製菓学校・総務部の吉崎睦課長が登壇し、チョコレートを試食して、チョコレートの歴史や国による文化の違いなどを説明。実際にスイート・ミルク・ホワイト・プロンズ・ルビーといった5種類のチョコレートを試食して、違いを感じた。

次に、正栄デリシィ社の商社企画部・中島均係長が登壇し、同社を代表するチョコレート菓子「サク山チョコレート」の誕生秘話やパッケージの仕掛けに、高校生たちは熱心に耳を傾けていた。第一部で取り組む商品開発のヒントを得たようだ。

第一部では、ワークショップ「考えてみよう！ サク山○三郎！」を実施。5～6人一グループで新商品を考案した。各グループにファシリテーターがつき進行。第一部の講演を受けて、商品の特徴やターゲット層などを意識してさまざまな商品を考案。最終的に、各グループは企画案を発表した。ペットとヒトが

一緒に食べることができるものや健康を意識した糖分控えめ「ブロニンを含んだものなど、高校生らしい自由な発想で商品企画を練っていた。ある生徒は、「ターゲットを意識して、どのような味で価格設定していくのかを考えるのが楽しかった」「普段グループで話し合うという経験がありながらため、貴重な経験だった」と、なかなかない経験に高揚感を隠そとうしない。

最後に、正栄デリシィの志賀絹代課長が登壇し、「高校生のみなさんの新鮮なアイデアに刺激を受けました」と講評。自信に満ちた表情を浮かべる生徒が多く、盛況裡に幕を閉じた。

同大は、今後も高校の探究学習をサポートしていく。